

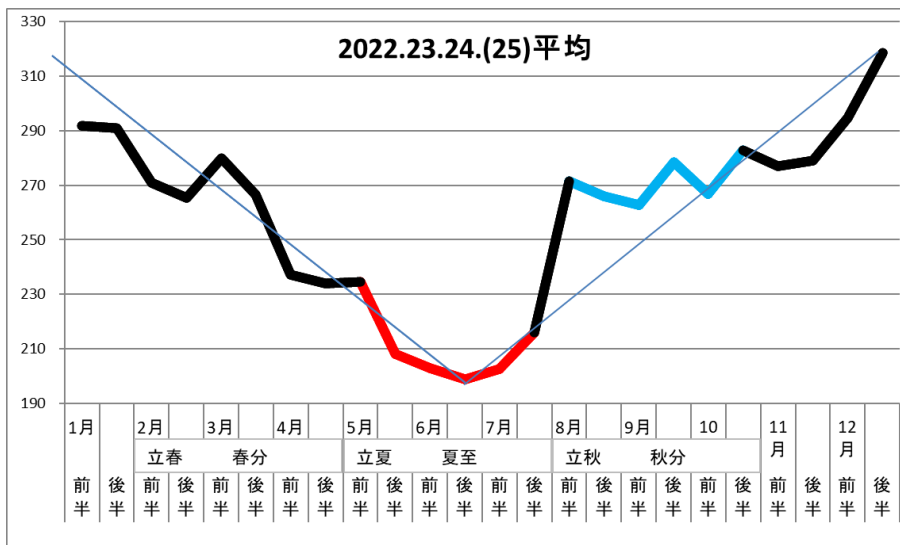
③ オランダの気候について

過去数年、春の雨天で植付が大幅に遅れ、遅霜の被害もあって球根肥大は悪い結果でした。今年（2025 年産）、3-4 月の天候は良く、球根生産者はできるだけ早く植えるよう努力し、4 月上旬には植付をほぼ終えた生産者がいたほどです。5 月上旬に東オランダの北の端辺りで霜が発生しましたが、球根生産地からはやや離れており、販売球・種球ともに被害はでいていないと報告を受けています。時期尚早ですが良い収穫結果が期待されています。

④ 需要に合せた百合切花生産へ

下表は、新聞相場を月の前後半で分け、過去 3 年の平均をプロットしたものです。

1-4 月は 2025 年を含んでいます。



二十四節気の春（春分前後）、夏（夏至前後）、秋（秋分前後）という四半期で見ますと、グラフのように（秋）8.9.10月の方が、（春）2.3.4月と同等以上、（夏）5.6.7月よりずっと高く評価されている事がわかります。昔から、生産コストや栽培期間がかかる冬は、夏よりも相場が高いと言われますが（冬至と夏至を結んだ斜め線の通り）、二十四節気の夏は多品目の花が露地でも出荷され、立夏（5月5日頃）以降はお庭や道端でもたくさんの花が咲きますから、競争は激しいと言えます。経済合理性を考えると、特に西日本の環境制御可能なハウス栽培においては、日射量の多い5~7月に土づくりを行い、夜間冷房を使用して8~10月に出荷する方が、需要にマッチしていることになります。換気率が良い（比較的大きくない）ハウスに定植、遮光（遮光率が足りない場合は日中だけ保温水平張りを半分閉めるなど）の高温対策、土表面を湿らせて蒸散熱の活用など、工夫の余地があります。弊社では今年も試験ハウス及びロット試験場にて“夜冷+細霧”試験を予定しております。

⑤ 試験ハウスのオープンデー

今年は、全国百合サミットが6月下旬に新潟で開催されることから、時期が重なる「6月のゆりの展示会」の開催は自粛し、代わりに試験品種の開花時期前後に当たる6月16日（月）~7月4日（金）を関係者の方々向けの「オープンデー」としています。人目を気にせず、ゆっくりご覧いただけます。ご来場予定日のご連絡をお待ち申し上げます。以上